

令和元年度老人保健健康増進等事業

産官学協働による地域包括ケアシステムの効果的・効率的な構築支援に関する
調査研究事業

公立大学法人 埼玉県立大学

1. 背景・目的

生産年齢人口の減少と85歳以上高齢者の急増が同時進行するなか、多様化する地域課題を解決していくためには、民間企業を含めた多様な主体の連携・協働が必要となるが、そうした取組は少ない。また、そのノウハウも共有されていない。

そこで、①市区町村と民間企業の連携に関するアンケート調査等、②先進事例の展開プロセス分析（豊明市、埼玉県立大学）、③都道府県等のマッチングに向けた取組例の把握などを通じて、市区町村と民間企業の連携の現状を把握し、今後の展開に向けた課題を整理することを目的に事業を実施した。

2. 方法

1) 市区町村と民間企業の連携の現状

- ・関東信越厚生局管内の450市区町村に対してアンケートを実施した。
- ・委員会やマッチングイベント等の参加市町村へのヒアリングを実施した。

2) 先進事例の展開プロセス調査（対象：豊明市、埼玉県立大学）

- ・豊明市の産官学関係者へヒアリングし、展開プロセスの整理を実施した。
- ・埼玉県立大学が行ってきた「市町村と民間企業をつなぐネットワーク会議」の展開プロセスの整理を実施した。

3) 都道府県・厚生局によるマッチングイベントの事例収集

- ・埼玉県及び東海北陸厚生局が主催したマッチングイベントの実施内容や方法、参加者に対する効果について情報収集と整理を行った。

3. 主な結果

1) 市区町村と民間企業の連携の現状

- ・約半数の市区町村は民間企業と連携していると回答していたが、その内容は委託に近く、連携・協働レベルではない可能性が示唆された。

2) マッチングイベントの効果について

- ・マッチングイベントは、①市区町村と民間企業の情報共有及び相互理解の促進だけでなく、他の市区町村・民間企業の取組状況を知る機会でもあること、②マッチングイベントに対する開催ニーズは、両者ともに高いことがわかった。

4. 今後に向けて

本事業を通じて、

- ①両者のマッチングの場を誰がどのように設けるか
- ②両者のパートナーシップ意識をどのように醸成するか
- ③連携・協働の手法をどのように学んでいくか

などの課題が明らかとなった。

多様な方法、体制で展開している様々な事例を収集し、その展開方法が見える化し、他の市区町村の参考になる形で見せていくこと、そして、その展開方法や考え方を学ぶ場とプログラムを開発し、試行し、改良していくことが、今後の当面の課題と考えた。